「業界内同期」一堂に

新入社員研修を開催

ともに成長へ

東京都中小建設業協会（山口巖会長）は、型枠工事の東京建設工業協同組合（星幸三理事長）、解体工事の東京建物解体協会（藤井誠会長）と共催で4月10日から12日の3日間、四ツ谷の主婦の友会館エフプラザで、51名が参加して平成31年度の新入社員研修を開催した。

29年度・30年度に次いで、今年が3回目。過去2回は建設業振興基金主催の地域連携コンソーシアム事業の助成金を活用して開催してきたが、助成制度の終了により、単独事業として開催。9月4日には「フォローアップ研修」の開催も予定している。

カリキュラムは、別表の通りで、電話の応対や名刺交換の仕方など、社会人としてのビジネスマナーをはじめ、施工管理などの専門分野も含めて幅広く研修。最終日には、前回（昭和39年、1964年）の東京オリンピックの競技場として建設、水泳会場として使用され、来年のオリンピックではハンドボール会場等となる国立代々木体育館の建設プロジェクトDVD視聴や、若手先輩からのアドバイス・意見交換なども行われた。

研修から5か月近く経過した現在、受講生の中にはゴールディンウィーク等をはさんで実社会の厳しさに戸惑ったり、仕事へのモチベーションが下降している人々もいるとみられるが、今回の研修で知り合った「仲間」「友人」とともにそれらを乗り越え、今後のフォローアップ研修等を経て着実に成長し、個々の企業、また、仮に転職しても同じ建設業界で長く活躍していくことを期待する。

研修終了後には、アンケートを実施したが、全体を振り返って最も有益、有意義だったと感じたのは今年も『業界内同期』との出会いのようだ。「年上とかかわることが多く、近い世代の方と交流ができ新鮮、刺激になった」「新人同士親睦を深めることができ、とても有意義」「多くの同期と接することができ、貴重で素敵な機会だった」「社内は同期が少なく、沢山の人と出会うことができ、よかった」「いろいろな人と話ができ、良かった」「50人ほどの同期ができ、今後もこの関係を大切にしていきたい」等との声が寄せられた。

新入社員研修の動画が協会HP「What's New」でご覧いただけます

個別のテーマでは、原価管理が勉強になったとの感想が目立ち、複数の研修生が今後それを意識し、今後の業務に活かしていく意欲が示された。また、「3日間の研修を糧に早く一人前になれるよう頑張る」「自分の土台ができそうなので、これから仕事に励んでいこう」「有益だった」「充実した3日間」「今後の支えになる」「コミュニケーションを積極的にとろうと思った」――など研修の成果が垣間見られる中、今年も『先輩の話、アドバイスが参考になった』とし、その内容が受講者にとって価値ある時間となったようだ。

アンケートを個別に見ると、講習のうち、初日の『社会人としての基本、仕事の基本』は「よく理解できた」が43%、「だいたい理解できた」が54%、「なんとなく理解できた」が4%、『PDCAサイクル』は「よく理解」50%、「だいたい理解」39%、「なんとなく理解」11%、『マナーの基本』が「よく理解」62%、「だいたい理解」34%、「なんとなく理解」3%、『来客・訪問のマナー』が「よく理解」43%、「だいたい理解」39%、「なんとなく理解」18%、『電話応対の基本』が「よく理解」45%、「だいたい理解」33%、「なんとなく理解」22%。いずれのテーマも、「よくわからなかった」と答えた受講生はゼロだった。

2日目の『品質管理』は、「よく理解できた」、「だいたい理解できた」が各32%、「なんとなく理解できた」が24%、「よくわからなかった」が12%、『工程管理』が「よく理解」31%、「だいたい理解」38%、「なんとなく理解」23%、『安全管理・建設業法』が「よく理解」、「だいたい理解」が各46%、「なんとなく理解」と「よくわからなかった」がゼロ、『原価・建設会社の経理』が「よく理解」48%、「だいたい理解」52%、「なんとなく理解」と「よくわからなかった」がゼロ。内容の専門・高度化に伴って理解度は若干低い傾向にあるが、『原価・建設会社の経理』については意外な結果で、それらにおいては、漫画や絵を取り入れてわかりやすかった、とのコメントが寄せられ、注目される。

3日目の『現場の1日の流れ』は、「よく理解できた」29%、「だいたい理解できた」10%、「なんとなく理解できた」5%、『DVD視聴－アナザーストーリー』が「よく理解」59%、「だいたい理解」27%、「なんとなく理解」14%、『若手先輩からのアドバイス、意見交換』が「よく理解」66%、「だいたい理解」20%、「なんとなく理解」14%。「よくわからなかった」はゼロで、3日目も『原価・建設会社の経理』が「よく理解」52%、「だいたい理解」48%、で、1日目同様「よくわからなかった」はゼロとなっている。

平成31年度　新入社員研修　カリキュラム

1日目　4月10日（水曜日）

時間	科目	内容	講師
10:00～10:10	主催者あいさつ		（一社）東京都中小建設業協会 会長　山口　巌
10:10～12:00	社会人としての心構え	挨拶・身だしなみ 仕事の基本 報・連・相	㈱研修屋 佐久間　寿美江
12:00～13:00	昼休み		
13:00～14:50	ビジネスマナー①	マナーとは 言葉づかい 態度；基本姿勢と動作 名刺交換	㈱研修屋 佐久間　寿美江
15:00～16:00	ビジネスマナー②	電話応対の基本	

2日目　4月11日（木曜日）

時間	科目	内容	講師
10:00～11:00	施工管理1	品質管理	森友建設㈱　常務取締役 千田　馨
11:00～12:00	施工管理2	工程管理	
12:00～13:00	昼休み		
13:00～14:50	施工管理3	安全管理・建設業法	㈱朝倉組　安全・環境部　部長 柴崎　博之
15:00～16:00	施工管理4	原　価・建設会社の経理	㈱建設経営サービス 加來雅隆（かく　まさたか）

3日目　4月12日（金曜日）

時間	科目	内容	講師
10:00～10:30		現場の一日の流れ	佐久間建設㈱　取締役 佐久間　藤樹
10:30～12:00		DVD「アナザーストリーズ」 ～代々木体育館～	戸倉建設㈱　会長 石塚　武
12:00～13:00	昼休み		
13:00～16:00	若手先輩からのアドバイスと意見交換会		㈱松下産業　ヒューマンリソース センター長　齋藤　朋子
16:00～16:10	アンケート記入 閉会のご挨拶		東京建設工業協同組合 理事　手塚　利行

ベテラン社員研修開く

都中建会議室において6月13日、マナビクスの丹羽將喜先生を迎え、ベテラン社員研修を開催した。45歳以下、また、入社15～20年の管理職・経営者の方が対象。

設備の早期発注要望

＝東京都住宅政策本部と意見交換＝

実勢単価との乖離改善も

都中建

東京都住宅政策本部は5月24日、都営住宅建設工事に関する建設業界団体と意見交換会を開催した。

意見交換会は、同本部が4月に発足したことを受け、工事の発注を現場環境の改善など都営住宅建設の円滑な進行に向けた諸課題を議論するため開催した。昨年度ごろから都営住宅の工事は外構を中心に不調が見られるようになっており、不調解消などに向け、業界団体からの意見を聞くことが目的。都の本部側は建設関係の担当部長、課長、東西の住宅建設事務所幹部、技術管理担当らが出席し、都中建は山口会長、渡辺健司建築委員長ら協会幹部が出席した。

この中で、都中建は「設備工事が不調になると、建築の基礎工事が進められなくなる。設備工事の入札時期を早めてほしい」と要望。同本部側は「都営住宅の建設にあたっては、分離発注が原則となっている。いずれの業種でも契約後、速やかに着手できることを前提に発注している。このため、不調を可能な限り避けられるよう、工事内容の工夫や適切な時期での発注を一層心掛けていく」と答えた。

さらに都中建は「インフレスライドについて、実勢価格と乖離があると思われる。またJV入札を復活させてほしい」と要望。同本部は「単価については今後も調査検討を行い、実態に近づけていくよう努めていく。また（制度面については）本部の所管の枠を超えるところもあるため、業界団体からの意見として関係部局にも伝えていく」とした。

週休2日制への意向について都中建側は「大手と中小では現場の実態に大きな差がある。十分な調査をお願いしたい」と求めた。対して同本部は、試行工事を開始したと説明。「まだ実績も少ないことから、今後も業界団体からの意見を踏まえ、現場の実態等の調査や検討を継続し、発注条件の見直しを行っていく」姿勢を示した。

加えて「女性活躍モデル工事に、快適トイレや更衣室等の経費を計上してほしい」と要望。本部側は「女性技術者が活躍できる発注条件について調査検討していく」とした。

このほか都中建側は、外構工事、木工事、杭工事、左官・吹付工事などで都の単価と実勢価格の差異がみられると指摘。同本部側は「今後も設計価格については調査検討を進めていく」と回答した。

本部では、日程等は未定も、建設業界団体との意見交換会を引き続き開催していく意向で、今後は設備関係の団体とも意見交換を行っていきたい考えを示している。

実りある情報・交流の場を

副会長、広報委員長、コンソーシアム協議会長　渡邊　裕之

（一社）東京都中小建設業協会の副会長ならびに広報委員長、コンソーシアム協議会長を務めさせていただいて居ります渡邊建設株式会社の渡邊です。

広報委員長と致しましては、協会の活動をいかに正確に解りやすく全員に伝える事、また、業界関連情報として、会員企業にとって役に立つ情報をお伝え出来るか検討をしております。

コンソーシアム協議会では、型枠や解体の組合さんとの合同の新人研修会、その後のフォローアップ研修や今年からスタート致しましたベテラン研修、また、建設業関連団体とのビジネスマッチングなど、会員企業ならびに交流団体にとって実りある情報や交流の場を作りお役立ていただける様、全力で頑張っております。

「作る喜び・働く喜び」を

副会長・土木委員長　鳥越　雅人

（一社）東京都中小建設業協会にしか出来ないこと。それは、第1に、各地域の代表として様々な機関に「中小建設業の働き手の生の声を届けること！」第2に、知恵と連携を駆使して会員会社のメリットになることをいち早く伝えることだと思っています。都中建に在籍する全ての若手からベテランまで、「作る喜び・働く喜び」を次世代の方に大切に継承してもらいたい。そんな思いで、「労働者育成事業、建設絵本の寄贈、合同説明会、若手入職者・ベテラン・経営者研修会など」様々な事業を展開して参りました。建設業新3K（休日は取れ、給料は高く、希望がある）の実現に向けて、皆で頑張りましょう！土木舗装委員長といたしましては、昨年に引き続き「書類の簡素化」に照準を定め、東京都に提言を行って参りますので会員の皆様、会員増強も含め引き続き都中建活動にご協力をお願い申し上げます。

会員増強急務、協力を

副会長　渡辺　健司

新しく令和の年の幕があき、会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

副会長を仰せつかっております、渡辺建設株式会社の渡辺でございます。

都中建では建築委員長、会費改訂プロジェクトを担当しております。

建築委員会では、5月に初めて東京都住宅政策本部との意見交換会を行いました。東部、西部住宅建設事務所所長をはじめ多数の幹部職員出席のもと都営住宅建設の課題について多岐にわたり意見交換を行いました。今後も継続して都営住宅建設における問題点を提起して行きたいと思います。

今年度、都中建の活動目標に組織強化を掲げております。

都中建は会員皆様からの会費により運営しております。

現在140社の会費収入ではぎりぎりの運営状況であります。安定した都中建にするには会員の増強が急務です。会員の皆様におかれましては、何卒、会員増強のご協力、ご紹介をお願い申しあげます。

オリンピック後を見据え

副会長　細沼　順人

元号が平成から令和となり、建設現場にもAIが導入されるなど時代の変化にスピーディーに対応していくことがさらに必要になっていくことでしょう。「AIによる自動化」、「女性・若者の活動推進」及び「働き方改革」について、建設業は他業界に比べ後れを取っているのが実状です。常に世の中の動きにアンテナを張り巡らせ、実現に向けて検討していきたいと考えています。

また、土砂災害や大地震など災害への対応が重要であるとの想いを年毎に強く感じます。都民から建設業界に寄せられる期待に応えるためにも責任は重大です。新たな決意を立てて臨みたいと思います。

オリンピック後を見据えた新時代に果敢に挑戦し、都中建が発注者・都民からより以上に必要とされる組織になれる様に微力ではありますが、尽力したいと思います。